

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社西田機械工作所 岸和田	階数	地上2階
建設地	岸和田市稲葉町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年10月24日
敷地面積	16,625 m ²	作成者	服部 貢
建築面積	7,413 m ²	確認日	2019年10月24日
延床面積	9,406 m ²	確認者	服部 貢



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
室内環境の向上に配慮し、視環境の向上や空間のゆとり、快適性の向上に努めた。		
Q1 室内環境 グレア対策としてブラインドで日光を抑制することで、視環境を向上を図った。 また、2階ホール(1)にトップライトを設け、室内環境の向上を図った。	Q2 サービス性能 空間にゆとりを持たせることで快適性の向上に努めた。また、内装も耐久性の高い床材、トイレについては防汚性の高い内装材を採用し維持管理に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 建物周囲に緑地を設け、周辺の景観に溶け込むようパランクスよく配置した。
LR1 エネルギー 断熱性能の高い外壁とし、建物の熱負荷抑制に努めた。	LR2 資源・マテリアル LGS壁の採用により、再利用可能性向上に努めた。	LR3 敷地外環境 建物利用者のための駐輪場及び駐車場を配置し、利便性を高めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0100

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	株式会社西田機械工作所 岸和田新工場新築工事					
		建設地	大阪府岸和田市稲葉町					
		用途/区分	事務所 工場					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.5	4		
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			2.0	2		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			2.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			3.0	3		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								